

2024年3月28日

各 位

公益社団法人 日本アクチュアリー会

## 中長期的な事業戦略の一部変更について

公益社団法人日本アクチュアリー会（理事長：上田 泰史）では、「中長期的な事業戦略」を一部変更しましたのでお知らせいたします。

アクチュアリーは、確率・統計などの手法を用いて将来の不確定な事象（＝リスク）の評価を行い、企業のリスクマネジメントを行うなど多彩なフィールドで活躍する数理業務のプロフェッショナルです。

日本アクチュアリー会では、2008年3月に「中長期的な事業戦略」（※1）を策定し、アクチュアリーが公益に資する専門職として社会に認知されることをビジョンとし、「公益性の発揮」、「専門性・問題解決能力の強化」および「組織力の強化」の3つの戦略目標に向かって、具体的な取組みを進めてまいりました。

アクチュアリーの活動において、保険・年金の伝統的な分野では、経済価値ベースの健全性規制や国際会計基準に関する検討、退職給付に係る会計基準の導入等、規制や実務の高度化が進んでいます。加えて、アクチュアリーの活動分野は、ERM（エンタープライズ・リスクマネジメント）やデータサイエンス、気候変動リスクへの対応等、伝統的な分野以外にも広がりつつあります。

今般、外部環境の変化を踏まえ、よりいっそう公益に資する取組みを推進し、アクチュアリーの専門職としての職務遂行能力の維持向上を図る観点から、「中長期的な事業戦略」の具体的取組項目について今日的な見直しを行うことといたしました。（※2）

今後は、いままで以上に中長期的な視点で会が運営を行っていくために、中長期的な事業戦略との関連性を意識して、単年度の事業計画を策定し、また、委員会等の活動を定期的に振り返り・見直すことで活動の推進態勢を高度化し、「中長期的な事業戦略」をさらに活用して参ります。

（※1）2008年3月に「2008年度を始期とする中長期的な事業戦略」を策定し、2013年の公益法人化に伴い一部内容を変更のうえ「中長期的な事業戦略」に名称を変更しています。

（※2）本会のビジョン、戦略目標は、普遍的に戦略を示しているため、変更いたしません。

本件に関する問い合わせは以下にお願いします。

公益社団法人 日本アクチュアリー会

TEL : 03-5548-6033

以 上

2024年3月28日  
公益社団法人 日本アクチュアリー会

## 中長期的な事業戦略

### ビジョン

日本アクチュアリー会のビジョンは、アクチュアリーが、金融・財務リスクや不確実あるいは偶発的な事象に関わる諸問題を実際に解決するための分析と提言を行う能力を有し公益に資する専門職として、社会に認知されることである。

### 戦略目標

日本アクチュアリー会は、ビジョンを具現化するために以下の戦略目標を設定する。

#### 戦略目標 1（公益性の発揮）

アクチュアリーが積極的に関与すべき国内外の諸課題について、その解決のためにアクチュアリーが重要な役割を担うことにより、公益に資すること

#### 戦略目標 2（専門性・問題解決能力の強化）

アクチュアリーとして有すべき資質・能力—知識、技術、実務能力および職業倫理—を明確化し、日本アクチュアリー会の活動を充実させること等により、すべての正会員がそれらの資質・能力を有し、正会員がアクチュアリーとして行う業務の品質が維持されること

#### 戦略目標 3（組織力の強化）

上記の戦略目標 1 および戦略目標 2 を達成するため、日本アクチュアリー会のガバナンスを強化し、運営面での透明性の向上を図ること

## 具体的取組項目

### 戦略目標 1（公益性の発揮）

アクチュアリーが積極的に関与すべき国内外の諸課題について、その解決のためにアクチュアリーが重要な役割を担うことにより、公益に資すること

- (1) 保険契約の国際会計基準、保険監督の国際基準、退職給付会計等を巡る問題に積極的に提言を行う。
- (2) ERM（エンタープライズ・リスクマネジメント）や金融リスクマネジメント分野に取り組むことにより、アクチュアリーの活動の場を広げ、それらの分野でも中核的な役割を果たす。
- (3) 社会保障分野等においてもアクチュアリアルな面を基礎として積極的に発言する。
- (4) 潜在的なアクチュアリアルな分野にかかる調査・研究を行い、情報の収集・発信に努める。
- (5) 当局や関連団体との意見交換の場を設定するなど外部との交流を進め、情報の収集・発信に努める。
- (6) 国際アクチュアリー会（IAA）の有力メンバーとして積極的な国際貢献を行い、国際的地位の維持・向上を図る。

### 戦略目標 2（専門性・問題解決能力の強化）

アクチュアリーとして有すべき資質・能力—知識、技術、実務能力および職業倫理—を明確化し、日本アクチュアリー会の活動を充実させること等により、すべての正会員がそれらの資質・能力を有し、正会員がアクチュアリーとして行う業務の品質が維持されること

- (1) アクチュアリーが備えるべき知識、技術、実務能力、職業倫理を、アクチュアリーを取り巻く環境変化に応じて見直し、試験・教育を体系化する。
- (2) 正会員向けの継続教育制度を制度面、内容面ともに段階的に充実させる。
- (3) 整備すべき実務基準、ガイダンス・ノートを特定し、優先順位をつけて作成する。また、それらの使用を通じて、アクチュアリーとして行う業務の水準を確保する。
- (4) 産学共同を活用し、研修会や研究会を通じて会員が先端分野の知識を習得するとともに、日本アクチュアリー会としても知識を蓄積する。

### 戦略目標 3（組織力の強化）

上記の戦略目標 1 および戦略目標 2 を達成するため、日本アクチュアリー会のガバナンスを強化し、運営面での透明性の向上を図ること

- (1) 委員会等の活動について、計画、実施、チェック、対応を確保するしくみ（PDCA サイクル）を明確化する。
- (2) 意思決定の透明性や機動性の一層の向上を図る。
- (3) 持続的に成長する組織に向けた取組みを充実する。
- (4) 認知度を高める観点からパブリシティを充実させる。

以上

具体的取組項目

戦略目標 1（公益性の発揮）

アクチュアリーが積極的に関与すべき国内外の諸課題について、その解決のためにアクチュアリーが重要な役割を担うことにより、公益に資すること

- (1) 保険契約の国際会計基準、保険監督の国際基準、退職給付会計等を巡る問題に積極的に提言を行う。
- (2) ERM（エンタープライズ・リスクマネジメント）や金融リスクマネジメント分野に取り組むことにより、アクチュアリーの活動の場を広げ、それらの分野でも中核的な役割を果たす。
- ~~(3) 退職給付会計等を巡る問題に積極的に提言を行う。~~
- (3) 社会保障分野等においてもアクチュリアルな面を基礎として積極的に発言する。
- (4) 潜在的なアクチュリアルな分野にかかる調査・研究を行い、情報の収集・発信に努める。
- (5) 当局や関連団体との意見交換の場を設定するなど外部との交流を進め、情報の収集・発信に努める。
- (6) 国際アクチュアリー会（IAA）の有力メンバーとして積極的な国際貢献を行い、国際的地位の維持・向上を図る。

戦略目標 2（専門性・問題解決能力の強化）

アクチュアリーとして有すべき資質・能力（知識、技術、実務能力および職業倫理）を明確化し、日本アクチュアリー会の活動を充実させること等により、すべての正会員がそれらの資質・能力を有し、正会員がアクチュアリーとして行う業務の品質が維持されること

- (1) アクチュアリーが備えるべき知識、技術、実務能力、職業倫理を、アクチュアリーを取り巻く環境変化に応じて見直し、試験・教育を体系化する。
- (2) 正会員向けの業務分野別研修等、義務化をも視野に入れて継続教育制度を制度面、内容面ともに段階的に充実させる整備する。
- (3) 整備すべき実務基準、ガイダンス・ノートを特定し、優先順位をつけて作成する。また、それらの使用を通じて、アクチュアリーとして行う業務の水準を確保する。
- (4) 産学共同を活用し、研修会や研究会を通じて会員が先端分野の知識を習得するとともに、日本アクチュアリー会としても知識を蓄積する。

戦略目標 3（組織力の強化）

上記の戦略目標 1 および戦略目標 2 を達成するため、日本アクチュアリー会のガバナンスを強化し、運営面での透明性の向上を図ること

- (1) 委員会等の活動について、計画、実施、チェック、対応を確保するしくみ（PDCA サイクル）を明確化する。
- (2) 意思決定の透明性や機動性の一層の向上を図る。
- (3) 持続的に成長する組織に向けた取組みを充実する。
- (4) 認知度を高める観点からパブリシティを充実させる。

以上